

議 長	副議長	事務局長	書 記
			



政務活動費実績報告書

令和 7 年 7 月 28 日

富谷市議会議長 金子 透 殿

会 派 名 新星とみや
代表者氏名 青柳 信義
議 員 名

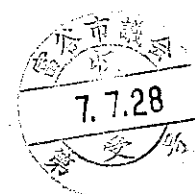


下記のとおり政務活動費を使用したので富谷市議会政務活動費運用指針の規定により、次のとおり報告します。

記

使 途	☒ 調査研究費 ☐ 研修費 ☐ 広聴費 ☐ 要請・陳情活動
実 施 期 間	令和 7 年 7 月 6 日(日)～令和 7 年 7 月 8 日(火)
実 施 場 所	7 月 7 日 北海道網走市 網走市役所 7 月 8 日 北海道根室市 根室市立花咲港小学校
出席(参加)者名	青柳信義、村上 治、塩田智明、渡邊俊一、菅原福治、佐藤浩崇
実施(調査)成果	別紙 調査報告書のとおり
行 程	(計画と変更がある場合記載)

※各欄に記載できない場合、別紙添付により提出も可能。



政務調査報告書

会派名 新星とみや

【 日 時 】 令和7年7月7日(月) 10:00~11:30

【 調 査 内 容 】 北海道網走市
「農産物について」

【 対 応 者 】 網走市議会 議長 松浦 敏司 様
農林水産部 農林課長 古田 孝仁 様
議会事務局 次長 本橋 洋樹 様

【網走市の概要】

網走市はオホーツク海に面し、流水の名所として知られる北海道北東部の都市。最寄りの女満別空港からは車で北へ約30分。市内にはJR石北本線・釧網本線が走っており、両線が乗り入れる網走駅をはじめ、桂台・呼人・北浜などの駅があり、道東～知床方面や旭川・札幌方面へ鉄道で移動することができる。路線バス・空港連絡バス・都市間高速バスに加えて、タクシーやデマンド型バスも利用可能で、2020年～2023年にかけて実証実験が実施され、市民や観光客の利便性向上を図っている。また、人手不足や高齢化に対応する自動運転バスの導入も検討中で、2027年度にレベル4無人運転の実用運行を目指している。マイカーやレンタサイクル(電動・クロス・シティタイプ)が日常・観光で広く利用されており、道幅の広い道路が整備されている。

農業では北海道内有数の畑作地帯となっており、麦類(小麦・ビール大麦)、馬鈴薯(ジャガイモ)、てん菜を中心とした大規模営農を展開しているほか、ダイコン、ナガイモ、ゴボウなどの野菜類や酪農、畜産も行っている。

代表的な景勝地として、冬に海岸を白く染める流水、南西部にある周囲43kmを持つ網走湖、標高207mの天都山などが挙げられる。歴史的には明治期の網走監獄が有名で、現在は博物館網走監獄として公開され、当時の木造舎房などを保存し貴重な文化財となっている。

市内には公立高校が3校。

- ・総人口 31,740人(令和7年5月末日時点)
- ・世帯数 17,826世帯
- ・面積 470平方キロメートル
- ・令和7年度一般会計当初予算額 275億7,723万円

【 所 感 】

網走市は、豊かな自然環境と耕地面積14,000ヘクタールに及ぶ広大な農地を背景に、畑作・酪農・畜産を基幹産業としながら、持続可能な農業の実現と地域経済の活

性化を目指し、多角的な施策を展開しています。特に、新規就農者や若手農業者への手厚い支援体制と、地元産農産物の高付加価値化・ブランド化への積極的な姿勢は、本市の農業・観光施策においても大いに参考になるものと考え、視察先に選定しました。

新規就農者に対しては、農地取得や経営開始に伴う費用の一部を市が助成する「新規農業参入者支援事業」があり、最大5年間の経費助成が受けられます。さらに、国の「農業次世代人材投資資金」制度を活用し、年間150万円の給付を受けることができるなど、経済的な不安を軽減する支援が整っています。これにより、地域への定着を促進し、農業の担い手確保に貢献しています。また、スマート農業技術の導入支援や、病害虫・鳥獣被害対策にも取り組み、農業の効率化と安全性の向上も図られています。

このほか、数戸の農家が大型農業機械などを共同所有し、共同作業を行う“営農集団の組織化”が進んでいることも大きな特徴です。これにより、単独では手が出せなかった中小農家が安価に最新大型機器を導入することが可能となり、作業の効率化と経営の安定化が図られています。現在、網走市内には36の営農集団が組織されているとのことであり、中小農家が主流の本市においても参考になるものと考えます。

一方、農産物のブランド化においては、市が策定した農業振興計画に基づき、オホーツクの気候や風土を生かした高品質な農産物の育成と、農商工連携による加工・販売の強化が進められています。特に「オホーツクあばしり和牛」は、ブランド肉として一定の認知を得ている上、令和9年度に北海道初開催となる全国和牛能力共進会への出品に向け、「あばしり和牛優良血統形成事業」として更なるブランド化が図られています。但し、消費量の減少や生産者の高齢化などが課題となっているとの説明もありました。こうした中、市では六次産業化の推進にも力を入れており、女性農業者や地域団体が中心となって加工品の開発や直販、体験型観光との連携が進められています。近年、インターネットでさまざまな情報が入手できる中、“体験型”の価値が高まりを見せているところであり、こうした取り組みは本市においても参考になるものと考えます。

また、新たなブランド創出に向けて、サツマイモやもち麦などの試験栽培も行われており、地域特性や気候変動に応じた品目の選定と販路拡大が図られています。これらの取り組みを通じて、農業者の所得向上と地元経済の循環を目指す姿勢が随所に見受けられました。

今後の課題について質問したところ、就農希望者のさらなる確保、ブランドの普及力向上、加工・販売のノウハウ不足といった点を挙げておられました。特に女性や若手農業者への継続的なサポート、加工技術やマーケティングに関する人材育成は、取り組みの定着と発展において欠かせない要素です。行政、普及センター、JA、民間企業など多様な関係機関との連携強化が求められるものと考えます。

総じて、網走市は農業者支援と農産物ブランド化の両面において、地域資源を最大限に活用し、将来を見据えた施策を積極的に展開している自治体であると感じました。今回の視察を通じて得られた知見を活かし、本市における農業・観光施策においても、更なる前向きな議論を深めていきたいと考えているところです。

政務調査報告書

会派名 新星とみや

【 日 時 】 令和7年7月8日（火） 9：30～11：00

【 調 査 内 容 】 北海道根室市 根室市立花咲港小学校
「インクルーシブ教育について」

【 対 応 者 】 根室市議会 議長 田塚 不二男 様
根室市教育委員会 教育長 波岸 克泰 様
根室市立花咲港小学校 校長 高田 真弓 様

【根室市の概要】

根室市は日本の市で最も東に位置する港町で、「朝日にいちばん近い街」をキャッチフレーズにしている。東西に細長く太平洋に突き出た根室半島の全域と、半島の付け根辺り、北方領土の歯舞群島を市域とする。日本本土最東端の岬「納沙布岬」は、日本でいち早く日の出を拝み、北方領土も望める観光スポットとなっている。太平洋とオホーツク海に挟まれ水産業が盛んであり、特にサンマや花咲ガニなどの水揚げ量は日本一を誇る。ラムサール条約に登録された風蓮湖・春国岱など、野鳥の楽園として知られ、360種以上の渡り鳥が観察できる。歴史的には北方漁業の基地として発展し、アイヌ文化に関連するチャシ跡群なども点在している。

最寄りの空港は中標津町にある中標津空港。鉄道はJR根室本線が通り、根室駅を東端に6駅がある。公共交通の本数が少なく、市民は自家用車での移動が中心。補完するため、地域公共交通計画のもとAI・デマンドバスなど新サービス導入の準備が進行中。

インクルーシブ教育に力を入れており、花咲港小学校で導入された「イエナプラン教育」では、児童が学びの計画を自律的に立て、仲間と対話しながら学ぶスタイルを実践している。多様な背景・特性を超えて学び合う環境を整備しているほか、小中一貫教育の推進にも注力している。

市内には公立高校が1校。

- ・総人口 22,135人（令和7年5月末日時点）
- ・世帯数 12,009世帯
- ・面積 502.65平方キロメートル
- ・令和7年度一般会計当初予算額 258億4,000万円

【 所 感 】

根室市では、人口減少とともに進む統廃合の波を受けつつ、令和5年度から花咲港小学校を「インクルーシブ教育のモデル校」として位置づけ、ドイツ発祥の教育思想「イエナプラン」を活用した新たな学びのスタイルを導入しています。この取り組み

は単なる障がい児との共学を超え、家庭環境・発達ペース・人種の別や男女差・社会背景など、あらゆる多様性を尊重する教育へと発展している点が特筆されます。

視察では、市教育委員会の波岸教育長や高田校長の案内のもと、実際の教育現場を確認しました。花咲港小は児童 10 名という小規模校で、統廃合の候補になる中、市独自のインクルーシブ推進校として存続。学校組織は校長 1 名、教頭 1 名、教員 2 名とコンパクトながら、イエナプランの理念に基づく細やかな対応が現場で実践されています。

イエナプランの中核概念は、暗記中心で一律に正解を求める「ジグソーパズル型」の教育ではなく、「レゴブロック型」の自律的思考・創造的学びを重視する点にあります。子どもたちが自身で学びの計画を立て、自ら問いを見つけ出し、仲間と協働し、振り返るプロセスを通じて、主体的・対話的で深い学びを促す教育です。

具体的には、①学年を超えた混合学級編成、②児童自身が週単位の時間割を立てるマイプラン学習・みなとっこアワー、③魚をテーマに水族館企画を行う「M プロジェクト」型の探究学習、④毎朝の「みなとく」サークル対話による心理的安全性の担保など、イエナプランの基本要素である自己決定・共同性・対話・創造性が学校生活に深く根付いています。

根室市教育委員会はこの教育実践を、「障がいのみならず、人種の別や男女差、性についての指向性、学習の進め方やペースの違いなどを一人ひとりの個性・価値観として認め、自分らしくあるための選択や決定を尊重する教育」として位置づけ、道内でも先駆的な事例とする方針です。この取り組みは教職員の価値観や指導スタイルの転換も伴いますが、教員間での丁寧な議論と研修を通して現場への定着が進んでいるとのことでした。

現場からは、児童が習熟度や興味に応じて自分のペースで学ぶことで、学習に遅れる児童が生じにくく、同時に学年や習熟度に応じてリーダー的立場を担う子どもが現れるなど、互いに学び合う姿が見られているとのことでした。また、波岸教育長より「子どもが学ぶペースを自分で決められれば、障がいの有無に関係なく深く学べる」との説明もあり、全ての児童が安心して共学できる環境が作られていることが確認されました。

課題について質問したところ、「特別支援を要する児童が混合学級でも適切に支援を受けられるか」「多様な児童に対する教員側の専門性・ICT 活用力の向上」「卒業後、中学校への展開計画の可否」などを挙げておられました。これらの解決に向け、根室市としては、北海道立特別支援教育センターとの連携強化や、教員 ICT 研修・AI 支援教材の活用など、教育情報化と支援体制整備を進めているとのことでした。

総じて、イエナプランを土台に据えた根室市・花咲港小学校のインクルーシブ教育は、「誰一人取り残さない」教育実現に向けた具体的かつ先進的な取り組みであり、時代の要求に応える事例であると感じました。小規模校ゆえの柔軟性を活かしつつ、今後の持続可能性には教員研修・地域との連携・制度的支援の強化が重要であり、全国にも広がり得るモデルと考えます。

教育現場は、国の動きに伴った大きな変化が今後も要求されていくことと推察します。今回の視察で得た学びを糧に、本市の教育環境の更なる充実についても、より前向きな議論を深めていきたいと考えてところです。